

2019年度 病院医学教育研究助成成果報告書

報告書提出年月日	2020年3月13日
研究・研修課題名	体外循環・補助心臓の技術向上および、人工心臓管理技術認定士・体外循環技術認定士取得のためのセミナー参加
研究・研修組織名(所属)	体外循環・人工心臓研修(MEセンター)
研究・研修責任者名(所属)	明穂一広(MEセンター)
研究・研修実施者名(所属)	明穂一広、中田早人、梅田宏幸、長谷川竜馬、岡田直之、大澤弘孝(MEセンター)

成果区分	<input type="checkbox"/> 学会発表 <input type="checkbox"/> 論文掲載 <input checked="" type="checkbox"/> 資格取得 <input checked="" type="checkbox"/> 認定更新 <input checked="" type="checkbox"/> 試験合格 <input checked="" type="checkbox"/> 単位取得 <input type="checkbox"/> その他の成果()
該当者名(所属)	明穂一広、中田早人、長谷川竜馬、岡田直之、大澤弘孝
学会名(会期・場所)、認定名等	体外循環技術認定士、人工心臓管理技術認定士
演題名・認証交付元等	日本人工臓器学会、日本胸部外科学会、日本心臓血管外科学会、日本体外循環技術医学会
取得日・認定期間等	2019.11.12
診療報酬加算の有無	<input type="checkbox"/> 加算有() <input checked="" type="checkbox"/> 加算無

目的及び方法、成果の内容

①目的

日本胸部外科学会・日本心臓血管外科学会・日本人工臓器学会・日本体外循環技術医学会では「医師の指示のもとで行う人工心肺等の体外循環装置を操作するための技術を有する能力」を評価する目的で体外循環技術認定士制度を設置している。人工心臓管理技術認定士認定試験は、「医師の指示のもとで行う(補助)人工心臓症例の管理に関する技能・知識を有する能力」を認定するものです。今回は体外循環技術認定士・人工心臓管理技術認定士取得・維持を目的にしている。

②方法

①日本人工臓器学会が主催する教育セミナーに参加する。

日時：2019年7月13(土)、14日(日)

場所：弥生記念講堂(東京女子医大講堂)

主催：日本人工臓器学会

②日本体外循環技術医学会主催の教育セミナーに参加する。

日時：2019年5月25日(土)～26日(日)

会場：帝京平成大学 沖永ホール

日時：2019年11月2日(土)・3日(日)

場所：岡山コンベンションセンター レセプションホール

主催：日本体外循環技術医学会

③第57回日本人工臓器学会に参加する

日時：2020年11月13日(水)～15日(金)

場所：大阪国際会議場、リーガロイヤルホテル大阪

主催：日本人工臓器学会

③成 果

現在、日本胸部外科学会・日本心臓血管外科学会・日本人工臓器学会・日本体外循環技術医学会では、心臓血管外科基幹病院認定機関の条件が「体外循環技術認定士 1 名以上」となっており、当院では現在 4 名が該当している。小児心臓血管外科の開設により、体外循環の症例数は、倍以上に増加しており、体外循環認定士による安全な体外循環の施行が求められてきている。TAVI など高度な手術の対応を求められている。その為、体外循環認定士を増やすため、人工臓器学会教育セミナーに 2 名。日本体外循環技術医学会主催の教育セミナーに 3 名。人工臓器学会大会 3 名が参加した。本年度は認定士試験に 1 名受験し合格した。これによって、当院の体外循環認定士は 5 名となっている。

今後、体外循環認定士を順次増やすために、セミナーの受講を行っている。人工心臓管理技術認定は、5 年毎の更新が必要な為に単位取得を行った。

今後は体外循環用のデバイスであるインペラ補助循環用ポンプカテーテルに使用に際して、体外循環認定士の資格が必要になる。人工心臓、ポンプカテーテル、人工心臓など体外循環を安全に適切に使用するために、技術と知識の向上を目指して行きたいと考えている。それに加え新人教育にも重点を置き次世代の育成に力を入れていきたい。

	単位取得	本年度取得	更新中
体外循環認定士	2	1	4
人工心臓管理技術認定士			1